

「平成29年度採材検討会」が開催される

実施年月日：平成29年6月19日（月曜日）

場所：岩手県盛岡市 姫神岳国有林68林班

参加者：林業事業体等43名、県職員2名、森林管理署職員等18名

盛岡市の姫神岳国有林において、木材の使用用途が様々に変化してきているなか、需要にあった採材の技術向上を図ることを目的に現地検討会を開催しました。

当日は、素材の採材等の考え方や木材市況の動向の話をした後、各生産請負事業体及び森林管理署の5班に分かれて、カラマツと広葉樹の採材を行いました。

合板材としての受け入れもあることから、4m等の長材での採材検討や広葉樹の一般材需要もあることを踏まえながら、それぞれが真剣に取り組んでいました。

参加者からは、表から見えない腐れについては判断が難しいことや、製材する際に節が残っていたり、曲がり強いと機械が止まるなどし生産性が落ちてしまうこと、検討会を重ねるごとに改善がみられていることなどの話しが出されました。

今回、初めて実施した広葉樹の採材では、シラカバはほとんど2m材での需要しかないことや、節のないウダイカンバで径級30cm以上のものについては4m材をとると価格が倍近く高くなること、節はきちんと処理しなければ買い手がつかないなど、生産現場ではなかなか分かりづらい情報も聞いたことで、今後の採材に生かしていける有意義な検討会となりました。



1. 検討会の風景（説明）



2. 現場の風景（全景）



3. 採材の風景（カラマツ）



4. 採材の風景（広葉樹）